

粟崎小学校

所在地：金沢市粟崎町へ78

電話：076-238-2234 F A X：076-238-2206

HPアドレス：<http://www.kanazawa-city.ed.jp/awagasaki-e/>

校長名：福久 俊彦

| 学年 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 特別支援学級 | 合計 |
|-----|----|----|----|----|----|----|--------|-----|
| 児童数 | 82 | 85 | 80 | 87 | 74 | 98 | 3 | 509 |
| 学級数 | 3 | 3 | 3 | 3 | 2 | 3 | 2 | 19 |

| | 校長 | 教頭 | 教諭等 | | | | | | | | 養護 | 事務 | 校務 | 他 | 合計 |
|-----|----|----|-----|----|----|----|----|----|----|---|----|----|----|---|----|
| | | | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 特学 | 他 | | | | | |
| 職員数 | 1 | 1 | 3 | 3 | 3 | 3 | 2 | 3 | 2 | 4 | 1 | 1 | 1 | 2 | 30 |

1 平成22年度学力向上の取組内容の検証

(1) 授業改善

ア 児童による授業評価

前後期に合わせて年間2回実施した。実施内容は、各教科の自己評価と授業への評価である。前年度課題であった「自分の考えをノートなどに書くことができた」は改善されてきたが、課題となった項目は「発表しやすい雰囲気である」「自分の考えを伝えることができた」の2つであった。今後もノート指導など授業において自分の考えを持たせ、しっかり聞くなど発表しやすい雰囲気づくりを行い進んで表現できる子をめざし「わかる」「できる」喜びを味わわせていきたい。

イ オープン授業、学習会

研究授業では、従来の全体研授業、分科研授業に加えて、全職員がフリーに参加しやすいオープン授業を実施した。学習指導、生徒指導上の悩み、学習したいことなど事前にアンケートをとり学習会も兼ねて実施した。学校研究である表現力に視点をあて、児童の姿や手立て等について話し合ったり、すぐに実践に生かせる学習会をもつことができた。

(2) 朝学習による習熟タイム

曜日ごとに内容を決めて、全校一斉に取り組んだ。8時15分からの開始時刻を守ることで、短い時間を有効に活用できるように取り組んだ。その結果、計算技能の向上や図書館利用の増加など効果が見られた。

(3) 個に応じた指導

5年、6年の算数で習熟度別少人数指導を実施している。1学級を2グループに分け、单元ごとにコース選択を行い、個に応じた指導を行っている。習熟度別グループに分けたことで、児童に応じた進度、内容で学習を進め意欲を高めることができた。

2 学力等の現状分析

(1) 国語科

ア 言語事項において漢字を正しく書くことはできるが、段落や文末表現など、作文の基本的な書き方のきまりが十分身に付いていない。

イ 相手や目的に応じて適切に書く力が十分身に付いていない。

ウ 語彙力が弱く、言語の意味が正確に理解されず、長文の読み取りが弱い。

(2) 社会科

ア 課題を解決するために必要な図や表、グラフなど資料を読み解く力、くらべて考える力がまだまだ不足している。

イ 石川県の地形や縮尺などの理解や空間的認知に課題が見られる。

(3) 算数科

ア 基本的な計算力は概ね身に付いているが、題意を正しくとらえて立式する力が十分身に付いていない。

イ 事実や根拠を明確にして考えを記述することに課題がある。

ウ 測定した量の数値を問う問題はできるが、量感が十分身に付いていない。

(4) 理科

ア 自然事象への関心は高いが、正確なデータを得るための実験の方法など観察・実験の技能に課題がある。

イ 関係付けて考えるなど、因果関係をとらえる力が十分身に付いていない。

3 学力向上の取組

(1) 各教科における取組

ア 国語科

(ア) 段落相互の関係に注意しながら、相手や目的に応じて、自分の考えが伝わるように書く活動を充実させるとともに、段落や文末表現など作文の基本的な書き方のきまりを身につけさせる。

(イ) 国語の時間だけでなく、いつでもどんな時にも辞書を手元に置き、引けるようにし、語彙力を高めていく。また、校内の掲示を工夫し、ことわざや四字熟語などに触れる機会を増やす。

イ 社会科

(ア) 資料活用力を高めるために、資料の基本的な読み取りができる力をつけていく（表題、縦軸、横軸、年代、出典）。それを踏まえた上で、各種の資料を活用し、自分の考えをまとめ表現する活動を充実させる。

(イ) 授業、朝の会などで地名・国名が出てきたときには常に地図で確認する習慣付けをする。また地図学習の時間を位置づけ、特に緯度・経度や方位、縮尺については繰り返し学習をする。低学年から絵地図作りに取り組み、距離感覚や空間認識を身につけるようにする。学習コーナーを設置し、地図に興味関心が持てるように工夫する。

ウ 算数科

(ア) 算数的活動を通して、数量や図形についての感覚を豊かにする指導を充実させる。

(イ) 問題の意味を正しく読むことができるように、大事な数値や問われていることに線を引くなどの手立てをとりながら読めるようにする。

(ウ) 問題解決にあたって、言葉、数、式、図、グラフ等を用いて、理由や根拠を明確にしながらか筋道を立てて説明する活動を重視する。

エ 理科

(ア) 《課題確認→予想をたてる→実験方法確認→実験→結果→考察》という一連の流れを授業およびノート指導に位置づけ、問題解決のための実験方法を考えたり説明したりする学習活動を充実させる。

(イ) 観察・実験の技能を確実に身につけさせるため、観察・実験の際は目的をはっきりさせたり、条件統一を考えさせるなど見通しをもって行うようにする。そして、観察・実験などの具体的な体験を通して、科学的な見方、考え方を深める指導を充実させる。

(2) 朝学習による基礎・基本の習熟

曜日ごとに内容を決めて、月・木・金は10分間、火・水は15分間実施して、基礎学力の定着を図る。

月：短作文 火：読書 水：英語 木：学級裁量で実施 金：計算

(3) 学年共通実践と実践報告

ア 学年会で教材研究を行い、課題設定、ワークシート、ノート指導、掲示等を統一したり、授業交流をしたりして、学年共通実践を行う。

イ 学年共通実践を報告し合い、指導方法、課題設定、手立て等について交流を図り、授業に役立てる。

4 その他の取組

(1) 体力の増進

栗っ子タイム、スポチャレいしかわ、縄跳び運動等に全校で取り組み、体力の増進を図る。記録の掲示やカードの工夫などを行い、意欲を高める。

(2) 健康、安全への配慮

はだし運動、「健康の木」を活用したふり返りカードの実施、保健・給食便り等を通して、健康、安全への意識を高める。

(3) 家庭との連携

ア 学校便り、ホームページ、スクールフォーラム、授業参観等で学校の教育活動や児童の学習の様子を知らせる。

イ 通知表渡し、個人懇談等の保護者との懇談では、到達度連絡表も有効に活用し、児童の学習状況や家庭での学習、生活の様子についてより細やかに伝えることで連携を図る。

ウ 家庭学習の内容を各学年で「基礎基本」となるもの「創造性」のあるもの等内容を吟味し実施していく。その際、家庭学習の内容や家庭学習の仕方、時間（10分×学年）等を今年度作成した「家庭学習の手引き」で知らせ、協力体制づくりを推進していく